



様式第 8 号（第 6 条関係）

平成 2 8 年 1 1 月 4 日

薩摩川内市議会

議長 上野 一誠 様

（会派代表者経由）

会派の名称 むつみ会

経理責任者氏名 永山 伸一



政務活動費に係る収支報告書

薩摩川内市議会政務活動費の交付に関する条例第 8 条の規定により、次のとおり、平成 2 8 年度政務活動費（前期）に係る収支報告書を提出します。

1 収入

政務活動費 4 8 0 , 0 0 0 円

2 支出

（単位：円）

科 目	金 額	備 考
調 査 研 究 費	419,402円	6/7～10 北海道稚内市、石狩市
研 修 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
広 報 費		
広 聴 費		
要 請 ・ 陳 情 活 動 費		
会 議 費		
人 件 費		
事 務 費	30,354円	コピー用紙等
合 計	449,756円	

3 残余の額

3 0 , 2 4 4 円

注 1 備考欄には、主たる支出の内訳を記載すること。

2 領収書、活動報告書その他必要な書類を添付すること。

3 会派に属さない議員の場合は、「会派代表者経由」の必要はないこと。

4 会派に属さない議員の場合は、「会派の名称」は記入しないこと。

5 会派に属さない議員の場合は、「経理責任者氏名」とあるのは「議員の氏名」と読み替えること。

平成28年11月4日

薩摩川内市議会
議長 上野 一誠 様

会派の名称 むつみ会
代表者名 大田黒 博



活動報告書

1 調査研究事業

(1) 調査年月日

平成28年6月7日（火）～平成28年6月10日（金）4日間

(2) 調査参加者

大田黒博、宮里兼実、永山伸一、福元光一（4名）

(3) 調査先及び調査項目

北海道稚内市

「新・省エネルギーの取り組みについて」

北海道石狩市

「廃校施設の活用について」

(4) 調査の概要

別添視察報告書のとおり

2 研修事業

3 広報事業

4 広聴事業

5 要請・陳情活動事業

6 その他活動

注1 会派に属さない議員の場合は、「会派の名称」は記入しないこと。

2 会派に属さない議員の場合は、様式中「代表者名」とあるのは「議員の氏名と」と読み替えること。

会派視察報告書

平成28年9月30日

薩摩川内市議会
議長 上野一誠 様

会派名 むつみ会
代表者 大田黒 博



政務活動による視察を実施したので、次のとおり報告します。

- 1 視察年月日
平成28年6月7日(火)～平成28年6月10日(金)
- 2 視察参加者
大田黒 博、宮里兼実、福元光一、永山伸一
- 3 視察先
北海道稚内市
北海道石狩市
- 4 視察目的
稚内市 新・省エネルギーの取り組みについて
石狩市 廃校施設の活用について
- 5 視察の概要
別紙のとおり

1. 再生可能エネルギーの取り組み

次の様に発電所施設がある。(稚内市運用4ヶ所・民間運用3ヶ所)

稚内市運用→・稚内公園風力発電所・稚内市水道部風力発電所

・稚内市バイオエネルギーセンター・稚内メガソーラー発電所

民間運用→・稚内風力発電所・さらきとまないウインドファーム・宗谷岬ウインドファーム

2. 風力発電

稚内市の風況(平成9年春に風況調査の結果)

地点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
20m	8.1	6.8	8.3	7.8	6.4	5.8	5.4	4.8	5.8	8.0	8.6	7.9	7.0
10m	7.1	5.9	7.3	6.6	5.5	4.8	4.4	3.8	4.9	6.5	7.4	6.8	5.9

(風向)

年平均16方位での傾向①南西 10.4% ②北西 9.2% ③東 8.8%

2-①稚内市が運用する風力発電施設

稚内公園風力発電施設 225kW×1基

2-②稚内市が運用する風力発電施設

稚内市水道部風力発電所 1,980 kW(660 kW×3基)

〈導入の主な効果〉

① 経済効果

- ・電力自給による電気代の節減 年間約 3 千万円
- ・売電収入による企業会計の基盤強化 年間約 7 千万円

② 子供達への環境・エネルギーに対する意識の醸成

- ・社会科副読本に掲載 小学校 4 年生の社会科見学で学習

③ 市が再エネ導入を先導。民間など市内全域への広がりの後押し。

④ クリーンエネルギー導入によるイメージアップ効果

2-③ 稚内最大の風力発電施設

宗谷岬ウィンドファーム 1,000 kW×57 基 平成 17 年 12 月操業

- ・三菱重工業㈱ 製
- ・総事業費 約 120 億円
- ・年間発電量は一般家庭約 48,000 世帯分の消費電力、稚内市の全消費電力量の約 7 割に相当

2-④ 風力発電導入の現状と今後

	施設名	事業主体	規模	用途	完成
現	稚内風力発電所	稚内ウィンドパワー	800kW(400kW×2 基)	売電	H10.2
			1,500kW(750kW×2 基)		H13.6
	稚内公園風力 発電所	稚内市	225kW(225kW×1 基)	施設供給	H10.10
	稚内市水道部 風力発電所	稚内市水道部	1,980kW(660kW×3 基)	浄水場 施設供給	H12.12
	さらきとまない ウィンドファーム	さらきとまない風力	14,850kW(1,650kW×9 基)	売電	H13.10
	宗谷岬 ウィンドファーム	ユーラスエナジー宗谷	57,000kW(1,000kW×57 基)	売電	H17.11
平成 28 年 6 月現在、稚内市の風力発電施設 74 基 76,355kW 市内の年間電力消費量の 85%に相当					
今 後	天北風力発電所	天北エナジー	30,000kW(3,000kW×10 基)	売電	H30 春
	平成30年春、稚内市の風力発電施設 84 基 106,355kW 市内の年間電力消費量の 110%に相当予定				
数十万 kW 規模の風力発電施設の導入拡大 ス페인、ドイツのような風力発電基地を目指す					送電網の整備

3. 再生可能エネルギー導入の経過

◇風力の他、太陽光発電、バイオマス発電、自然冷熱利用など

	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2013	H25 2014
自然冷熱貯蔵庫 (勇知いも)	→ NEDO 実証研究 (H16~H21)				→ 地元 (山本建設) が維持管理			
稚内メガソーラー 発電所 5MW	→ NEDO 実証研究 (5年間)					→ 稚内市が維持管理		
バイオエネルギー センター(PFI 事業)							→	
電気自動車 市公用車 2 台導入						→		
天北風力発電所 3 万 KW (3 千 kW×10 基を想定) 平成 30 年度運転開始予定								

3-①太陽光発電 稚内メガソーラー発電所

自治体初のメガソーラー発電施設の誕生

敷地面積：14ha(東京ドーム 3 個分)

有効面積：12.5ha

PV 枚数：28,498 枚

PV 容量：5,020kW(一般家庭 1,700 世帯)

NAS 電池容量：1,500kW

- ・平成 18 年(2006 年)に NEDO 実証実験施設として建設開始。
- ・平成 23 年 3 月 18 日をもって 5 年間の実証研究が終了。
- ・北海道立「宗谷ふれあい公園」、市営大沼球場に電力を供給。
- ・余剰電力は、北海道電力に売電。年間売電収入約 1 億 5 千万円

※1,500kW の蓄電池(NAS 電池)を併設

変動を制御し、系統への影響を最小化して系統連系。
全国から毎年約 1,700 人の視察(海外からの視察も)

3-②太陽光発電 公共施設での太陽光発電

エネルギーの地産地消

- ・市営住宅団地への導入
- ・教育施設への導入
- ・商業施設への導入

3-③バイオマス発電

稚内市バイオエネルギーセンター

生ごみを分別し、エネルギーとして有効活用するとともに、ごみの排出量を抑制。

- ・H24 年 4 月供用開始 PFI 事業

- ・生ごみから発生するバイオガス(メタンガス)により発電、最終処分場の電力として利用
- ・温水、ロードヒーティングなど熱利用も
- ・収集運搬するパッカー車 2 台を CNG 対応に改造し、その燃料としても利用
- ・最終残渣は、堆肥の有機資材として農協へ無償提供
- ・ガスエンジン式発電機 200kW

3-④自然冷熱利用

自然冷熱貯蔵庫

- ・冬期間に、D 型ハウス内の水を寒風により、水槽内で凍らせ氷を製造。氷の冷気を併設する保管庫に送り、夏期間の貯蔵庫内を 3℃以下に保持
- ・併設する貯蔵庫で、「勇知いも」を保管。
- ・実用化試験：水産物実用化試験、農作物貯蔵試験、生ハム製造、花卉類、開花制御試験

4 省エネの推進

電気自動車導入

- ・平成 23 年 1 月、電気自動車 2 台導入(公用車)
- ・年間、約 1,700L のガソリンを節約、約 4,000kg の CO₂排出量抑制
- ・市民、事業所への普及啓発

所感

限りない自然の力を利用した、新・省エネルギーの取り組みが進んでいると実感すると同時に未来を見据えた町づくりと、エネルギー事業を組み合わせ稚内が将来栄えることを感じた。日本全国地域に合った自然エネルギーへの取り組みが必要であると思う。

学校統廃合の状況と跡利用について

次の様である

- ・石狩市立若葉小学校(昭和 52 年創立)402 名 耐震強度に合格
- ・石狩市立紅葉山小学校(昭和 54 年創立)805 名 耐震強度に合格
- ・二つの学校を統合し(平成 22 年)「双葉小学校」を新設
- ・「学び交流センター」を設置

特別支援学校

星置養護学校紅葉山分教室設置の経緯

- ・平成 21 年 4 月 地域との意見交換
- ・ 12 月 パブリックコメント
- ・平成 22 年 耐震・大規模改修工事実施
- ・平成 23 年 1 月 校舎開設式実施
- ・ 4 月 本格稼働

学び交流センター 目的と利用状況

・市民の生涯にわたる学習活動を支援するとともに、交流の場を提供することにより、本市の文化の振興及び市民の交流の促進に寄与するため

年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
利用人数	16,267 人	17,473 人	16,978 人	19,365 人
利用件数	1,382 件	1,664 件	2,101 件	2,223 件

学び交流センターの施設概況

・施設概況

設置年月 平成 23 年 4 月

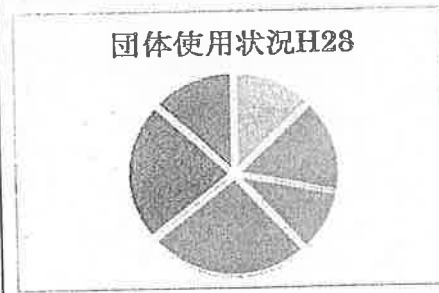
施設概要 研修室 6 室

普通教室サイズ 4

視聴覚室 1 多目的ホール 1

事務室 1

学び交流センター定期団体使用状況



■ 手芸(洋裁・手編み等)

■ 絵画

■ 俳句・詩吟

■ 健康・体操

■ 歌唱・舞踊

■ その他(パソコンなど)

花いっぱい運動

・参加団体等：星置養護学校紅葉山分教室、児童ディサービスよかつち、マリア幼稚園、学び交流センター利用団体

学び交流センター連絡協議会

・毎月 1 回開催

・参加団体等

星置養護学校・よかつち・マリア幼稚園・

ジェルメまるしえ(若者支援団体)・石狩市文化協会・社会教育課

所感

経済最盛期に地域の人口が増え小学校も生徒数が 2 つの小学校合せて創立時 1,200 人余りおりにぎやかだったが今までは子供も少なくなり統廃合を余儀なくされ、学校施設は子育ての終わった親の方々が余暇を利用して学校跡地で生涯学習に励んでおられた。

利用団体は、年間 16,000 人～19,000 人で流れていた。平成 27 年調査で人口 60,000 弱の市の割合から見ると高い利用率であり有効に使われていると思った。今後、残された施設も企業などからの使用申請があると廃校跡地の施設が十分活用されると思うので研究されるよう要望した。